

一般社団法人日本医療薬学会
2020年度第4回定例理事会 議事録

一．開催日時： 2020年12月24日（木） 13時30分～17時30分

二．開催場所： インターネットを介したウェブ会議（Zoomを利用）

三．出席者

会 頭： 奥田 真弘

副会頭： 山田 安彦、山本 康次郎、武田 泰生

理 事： 石井 伊都子、石澤 啓介、出石 啓治、大谷 壽一、河原 昌美、
吉光寺 敏泰、崔 吉道、齋藤 秀之、田崎 嘉一、寺田 智祐、
村木 優一、百瀬 泰行、矢野 育子

監 事： 佐々木 均

陪席者

年会長： 山田 清文

顧 問： 木平 健治、安原 真人、和田 一夫

事務局： 星 隆弘

欠席者

理 事： 齋藤 嘉朗、鹿村 恵明、富岡 佳久

監 事： 大森 栄、望月 眞弓

顧 問： 山本 信夫

四．議長： 奥田 真弘

五．会議の成立

定刻において、議長より開会が宣言され、本理事会は理事 17 名の出席があり、定款第 38 条に定める定足数を満たしており、適法に成立している旨が報告された。

六．議事の経過の概要及びその結果

1. 2020年度第3回定例理事会議事録の確認

議長より、本年10月30日に開催された2020年度第3回定例理事会の議事録を基に議事内容が確認され、修正等がある場合には本理事会終了時までに指摘するよう要請があった。

2. 第12回臨時社員総会議事録の確認

議長より、本年11月15日に開催された第12回臨時社員総会の議事録を基に議事内容が確認され、修正等がある場合には本理事会終了時までに指摘するよう要請があった。

3. 協議事項

(1) 第 30 回年会収支報告（中間）及び寄付金の取り扱い

山田第 30 回年会長より、オンライン開催となった同年会の実施報告の概要及び収支状況の中間報告があった。当初の見込みを大幅に上回る 9000 名を超える参加者があり盛会裏に終えたこと、それを受けて収支計画を上回る収益が得られたことより、本理事会の前に寄付金の提供者である日本製薬団体連合会に取り扱いを相談したところ、次回年会への繰り越しを言及されたことが報告された。

当該寄付金の取り扱いが協議された結果、年会への支出を前提とした特定資産として引き当てることとなった。また、齋藤第 31 回年会長より同年会については、従前と同様に同連合会への寄付依頼手続きを進める方針が述べられた。また、日病薬への交付金申請が行われていないため、本手続きを進めることとなった。

(2) 財政安定引当措置（2019 年度決算を受けた定期預金への積み立て）

事務局より、2019 年度決算を受け、普通預金口座に 1 年間の運転資金を上回る預金があるため、財政安定引当資産として 5,000 万円を定期預金化したいことが相談された。協議の結果、本件は了承された。

(3) 2021-2022 年度代議員選挙の立候補状況報告及び開票立会人の選任

石澤理事より、2021-2022 年度代議員選挙（定数：315 名）に 348 名から立候補があったこと、今後定数の 10%にあたる 32 名の代議員推薦候補者の選任手続きが進められることが報告された。

続いて、本選挙の開票立会人として折井孝男氏を、同立会人の候補として選任したことが説明された。協議した結果、折井氏を同立会人とする事が決定された。

(4) 2020 年度各専門薬剤師認定制度における認定審査結果

1) 2020 年度医療薬学専門薬剤師制度の新規、更新の各認定審査結果

百瀬理事より、医療薬学専門薬剤師（新規・暫定）、同指導薬剤師（新規）、本年 12 月 31 日をもって認定期間が満了する同専門薬剤師、指導薬剤師及び研修施設に係る医療薬学専門薬剤師認定委員会での審議結果に係る説明があった。

1)-1 医療薬学専門薬剤師（新規・暫定）の受験資格

医療薬学専門薬剤師の新規暫定認定申請に 88 名より申請があり、医療薬学専門薬剤師認定委員会で書類審査を実施した結果、全 88 名が専門薬剤師認定試験の受験資格を有していると判定したことが説明された。協議した結果、了承された。

1)-2 医療薬学指導薬剤師（新規）の認定審査

医療薬学指導薬剤師の新規認定申請に 34 名より申請があり、医療薬学専門薬剤師認定委員会で書類審査を実施した結果、全 34 名が認定要件を充足していると判定したことが説明された。協議した結果、了承された。

1)-3 医療薬学専門薬剤師（更新）の認定審査

医療薬学専門薬剤師の更新認定申請に 225 名、更新保留申請に 3 名より申請があり、医療薬学専門薬剤師認定委員会で審査を実施した結果、全 225 名の更新と 3 名の更新保留が認められると判定したことが説明された。協議した結果、了承された。

1)-4 医療薬学指導薬剤師（更新）の認定審査

医療薬学指導薬剤師の更新認定申請に 113 名、更新保留申請に 2 名より申請があり、医療薬学専門薬剤師認定委員会で審査を実施した結果、全 113 名の更新と 2 名の更新保留が認められると判定したことが説明された。協議した結果、了承された。

1)-5 医療薬学専門薬剤師研修施設（更新）の認定審査

医療薬学専門薬剤師研修施設の更新認定申請に 25 施設より申請があり、医療薬学専門薬剤師認定委員会で審査を実施した結果、全 25 施設（基幹施設 23 施設、連携施設 2 施設）の更新が認められると判定したことが説明された。協議した結果、了承された。なお、連携施設は、2021 年度の新規認定と同一時期に認定することとなった。

2) 2020 年度薬物療法専門薬剤師制度の新規、更新の各認定審査結果

石井理事より、2020 年度の薬物療法指導薬剤師の新規認定申請、本年 12 月 31 日をもって認定期間が満了する同専門薬剤師、指導薬剤師及び研修施設に係る薬物療法専門薬剤師認定委員会での審議結果に係る説明があった。

2)-1 薬物療法指導薬剤師（新規、更新）の認定審査

薬物療法指導薬剤師の新規暫定認定申請に 20 名より申請（正規 4 名、暫定 16 名）があり、薬物療法専門薬剤師認定委員会で書類審査を実施した結果、9 名を認定可、6 名を条件付き（症例につき再審査を実施）にて認定を認めると判定したことが説明された。協議した結果、了承された。

2)-2 薬物療法専門薬剤師（更新）の認定審査

薬物療法専門薬剤師の更新認定申請に 2 名、更新保留申請に 2 名より申請があり、薬物療法専門薬剤師認定委員会で書類審査を実施した結果、全 2 名の更新と 2 名の更新保留が認められると判定したことが説明された。協議した結果、了承された。

2)-3 薬物療法指導薬剤師（更新）の認定審査

薬物療法指導薬剤師の更新認定申請に 5 名より申請があり、薬物療法専門薬剤師認定委員会で審査を実施した結果、全 5 名の更新が認められると判定したことが説明された。協議した結果、了承された。

2)-4 薬物療法専門薬剤師研修施設（更新）の認定審査

薬物療法専門薬剤師研修施設の更新認定申請に 12 施設より申請があり、薬物療法専門薬剤師認定委員会で審査を実施した結果、全 12 施設（基幹施設 10 施設、連携施設 2 施設）の更新が認められると判定したことが説明された。協議し

た結果、了承された。なお、連携施設は、2021年度の新規認定と同一時期に認定することとなった。

3) 2020年度地域薬学ケア専門薬剤師制度の各新規認定審査結果

出石理事より、地域薬学ケア専門薬剤師（新規、暫定）及び研修施設（連携施設）に係る地域薬学ケア専門薬剤師認定委員会での審議結果に係る説明があった。

3)-1 地域薬学ケア専門薬剤師（新規、暫定）の認定審査

地域薬学ケア専門薬剤師の新規暫定認定申請に67名より申請があり、地域薬学ケア専門薬剤師認定委員会で書類審査を実施した結果、66名の認定を認めると判定したことが説明された。協議した結果、不認定と判定した1名の認定を追加し、全67名の認定が了承された。

3)-2 地域薬学ケア専門薬剤師（がん）（新規、暫定）の認定審査

地域薬学ケア専門薬剤師（がん）の新規暫定認定申請に159名より申請があり、地域薬学ケア専門薬剤師認定委員会で書類審査を実施した結果、157名の認定を認めると判定したことが説明された。協議した結果、了承された。

3)-3 地域薬学ケア専門薬剤師研修施設（連携施設）の認定審査

地域薬学ケア専門薬剤師研修施設（連携施設）の認定申請に208施設より申請があり、地域薬学ケア専門薬剤師認定委員会で書類審査を実施した結果、207施設の認定が認められると判定したことが説明された。協議した結果、了承された。

(5) 専門薬剤師制度運営に係る検討

寺田理事より、各専門薬剤師制度の規程細則の改正として、クレジットの対象となる研修会として、臨床研究セミナーを加えるとともに、がん専門薬剤師制度では従前より参加単位を認めてきたがん専門薬剤師全体会議やアドバンスト研修会も別表に加えるほか、文言の整備を図ることが説明された。協議した結果、本改正は了承された。続いて、地域薬学ケア専門薬剤師制度の広報活動となる研修会の開催やチラシの作成、配布などに関わる報告があった。

(6) ウェブ研修会のあり方検討WGの設置、各種研修会の開催方針

議長より、新型コロナウイルス感染症の渦中及びPOSTコロナを見据えて、本学会として長期的視野に立った研修会開催形態のあり方に関する指針策定が必要と考えられるため、崔理事を委員長とするウェブ研修のあり方検討ワーキンググループを設置したことが報告された。続いて、崔理事より、先日、本WGを開催し取りまとめた報告と今後の検討課題に係る説明があった。また、今後継続的にWGを開催し、有益なウェブ研修会等の実施につなげる検討を進める方針が述べられた。

(7) 情報システム検討WGの設置

議長より、前の議題に続く検討事項として、研修会等、本学会事業のオンライン化・デジタル化を進め、事業の質確保・効率化、会員サービスの向上を念頭に、種々の情報システムの見直しや構築を図るために、石澤理事を委員長とする情報シス

テム検討ワーキンググループの設置に係る説明があった。協議した結果、本件は了承された。

(8) 2021 年度医療薬学学術小委員会の募集、2020 年度に発足した同小委員会の名称

齋藤（秀）理事より、2021 年度学術小委員会の設置に係る調査研究課題の募集概要が説明された。また、2020 年度に採択され発足した 2 つの医療薬学学術小委員会の名称の取り扱いが示された。協議した結果、本件は了承された。

(9) 第 35 回年会長の募集（2025 年開催）

事務局より、第 35 回年会の年会長の募集要項に係る説明があった。協議した結果、本件は了承された。

(10) 理事会、各委員会の企画による年会シンポジウムへの登録

事務局より、本学会の各委員会・小委員会が企画する第 31 回年会へのシンポジウムの演題登録にあたり、企画シンポジウム委員会が取りまとめを行うため同委員会宛に届出を行うとともに理事会で情報を共有し、事務局を通じてシステムに登録することが説明された。本件は了承され、後日、事務局より登録手続きの連絡が行われることとなった。

(11) 第 13 回定時社員総会の開催

事務局より、前回、前々回の理事会で継続的に協議された第 13 回定時社員総会の開催計画として、2021 年 3 月 20 日（土）の 13 時より日本薬学会長井記念ホールにおいて、小規模（成立要件を充足する形）にて開催することが提案された。協議した結果、本件は了承された。

(12) 2021 年度版広報用リーフレットの策定

村木理事より、2021 年度版広報用リーフレットの策定にあたり、広報委員会で取りまとめたデザイン原稿案をもとに説明があった。協議した結果、一部の情報を追記した上で作成を進め、各大学の薬学部を通じて薬学生に配布することとなった。

(13) 日本腎臓学会からの委員の推薦依頼

議長より、日本腎臓学会から同学会が策定しているがん薬物療法時の腎障害ガイドラインの改訂にあたり、本学会宛に寺田理事に協力委員として就任依頼があったことが説明された。協議した結果、寺田理事が同意していることより、承諾回答をすることとなった。

(14) 国立がん研究センターがん対策情報センターからの委員推薦依頼

議長より、国立がん研究センターがん対策情報センターより、同センターが開発する外来でがん薬物治療にかかわる専門職が日々の活動をセルフチェックする評

価項目の作成作業への協力として、本学会に 4 名のがん専門薬剤師又は同指導薬剤師の推薦依頼があったことが説明された。本件については、寺田理事及び河原理事より適任者が推薦され、回答済みであることが申し添えられた。

(15) 大学改革支援・学位授与機構からの専門委員候補者の推薦依頼

議長より、大学改革・学位授与機構より、大学を対象とした評価を行う機能別認証評価委員会専門委員候補者の推薦依頼があったことが説明された。協議した結果、奥田会頭及び山本副会頭の両名を推薦することとなった。

(16) 学会事務局のデジタル化に係る環境整備

事務局より、事務局のデジタル化を進めるために、第 1 回理事会で了承されたタブレット端末を活用した会議実施のための機器導入のみならず、これからの会議形態を見据えて、テレビ会議システムを活用したハイブリット開催にあたってのシステムの導入などを進めたいことが説明された。協議した結果、後者の整備方針は了承されたが、具体的なシステムの選定にあたっては、山本副会頭及び石澤理事への相談、了承を得た上で導入することとなった。

(17) 年会費の遡及納入

田崎理事より、前年度会費の遡及の嘆願 4 件についての説明があり、協議した結果、本嘆願を了承することとなった。

(18) その他

議長より、次回の理事会に向けて、本学会の慶弔規程の整備を進める方針の説明があり、了承された。

また、山本第 32 回年会長より、同年会の開催会場を横浜市から高崎市への変更に係る提案があり、意見交換を行った。本件については、次回以降の理事会で協議することとした。

4. 報告事項

(1) メール審議による理事会審議の結果報告

議長より、前回の理事会から当理事会が開催されるまでの間に、メールをもって理事会で審議された案件の概要と審議結果が報告された。

・海外研修等助成事業規程の改正、2021 年度海外研修等助成員の募集要領(11/25 承認)

本件の審議については、了承され、規程の改正とともに海外研修助成員の募集が開始されていることが報告された。

(2) 創立 30 周年記念事業に係る現状報告

山田副会頭より、創立 30 周年記念事業に係るこれまでの経過報告と、次年度に予定している座談会の開催、記念誌の編纂に関する計画が説明された。

(3) 第 31 回年会の準備状況報告

齋藤第 31 回年会長より、同年会の会場使用・タイムスケジュールに係る計画が報告された。また、第 30 回年会で実施できなかった 2020 年度学会賞受賞者の授賞講演を第 31 回年会の会場で実施予定であることも報告された。

(4) 公開シンポジウム、各研修会等の開催計画

・ 山本副会頭より、第 80 回公開シンポジウム（前橋市）に関する開催状況が報告された。

・ 矢野理事より、第 1 回臨床研究セミナーを 2021 年 4 月 18 日（日）にオンライン開催として実施する計画が報告された。

(5) 抗がん薬プロフィール委員会の最終報告

河原理事より、今年度で活動を終える抗がん薬プロフィール委員会の活動の最終報告が行われた。

(6) 後援依頼への対応

議長より、本学会への後援依頼があった「AYAweek2021」に係る後援を承諾したことが報告された。

(7) 委員会報告

次の各委員会の議事録を基に、各委員長より議事概要が報告された。

2020 年度第 3 回がん専門薬剤師能力向上小委員、第 1 回製薬企業連携検討 WG

以上をもって全ての議事の審議及び報告を終了したので、議長は 17 時 30 分に閉会を宣言し、解散した。